



## 宮城県日中友好協会

〒981-0931 仙台市青葉区北山 2-5-1-103

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ http://www16.plala.or.jp/miyagikenn/

7月、(文月 ふみづき)。老体にはきつい行事が重なった6月から7月に。今月は前月と打って変わって楽ができると思いきや、8月開催の定期総会準備。総会が終われば少しは楽にとの淡い思いを持ちつつ・・・にムチ打ちつつ頑張ろう。

### 1. 7月の行事

日 時	行 事 名	場 所
7月6日(土)	宮城県日中友好協会第5回理事会 13:30~	仙台市民活動サポートセンター研修室5
7月15日(日)	大崎市日中友好協会通常総会 14:00~	古川グランド平成

※ 各地区協会・委員会の行事報告等あれば掲載いたしますので、ぜひFax, メール等でお知らせください。

### 2. 南村志郎氏の講演会を聞いて (青年委員会顧問 横山弥生)



ニュースや本、インターネットで見聞きすることと違い、事実を見て調べて要人に直接会った南村氏の話は、どれも説得力のあるものでした。失礼ながら、卒寿を迎えた方とはとても思えない、しっかりした口調でした。「引っ越しができないお隣さんの中国と日本が、どうお付き合いしていくかが大切」そのために「今、何をしなければならないか。」「歴史についてきちんとした教育が必要です。」と何度も述べていらっしゃいました。歴史を学ばずに中国に出掛けるのは意味がないそうです。今後、歴史を学ぶ機会を設けることが協会に求められていると思いました。特に若い人達へ伝えることが大切だと話していました。若い人と出会うような、そして日中の若者同士が良い友達になれるような事業を考えていきたいと思いました。さらに講演の中で、中朝関係・中米関係、中国がもっている「最後の切り札」についても話が及びました。中米朝韓日そして台湾香港が微妙なバランスを保っていることを感じました。絶妙なバランスを保ち続けることを願ってやみません。南村氏は「天安門事件は絶対に間違っていた。」と断言しました。今、氏はこの事件の真相について、文献を調べたり鄧小平の通訳に会ったりして調べているそうです。是非本を出版していただき、そしてまた仙台でご講演いただけることを願っています。また、著書「日中外交の黒衣六十年」を一人でも多くの方に読んでもらうことを願っています。周恩来首相の言葉「加害者が過去のことを忘れてはいけない。被害者の方ができるだけ過去のことを忘れようとする。こういう関係になったときに、初めて日中の花が開く」私はこの言葉が一番心に残りました。最後にこのように有意義な講演会を開いていただいたこと、ご縁をいただいたみちのく経済文化研究会の皆様へ感謝申し上げます。

### 3. 令和元年度石巻地区日中友好協会定期総会・懇親会を開催



6月2日(日) 16:00~石巻グランドホテルで冠行事、中華人民共和国建国70周年記念として開催。木村正幸理事長の進行で白井省三会長挨拶、祝辞に、亀山紘市長、殷達奇駐新潟副総領事(肖勤経済商務領事も出席)、尾池守石巻専修大学長、江幡武宮城県日中友好協会名誉会長と頂戴し、議長に木村裕一理事のもと、2018年度事業報告・収支決算報告・監査報告と2019年度事業計画・収支予算報告が承認され、役員改選では、加賀剛理事が副理事長に、堀川禎則副理事長が顧問に就任。記念講演は「広東船の漂着と旧」北上町の日中町民交流」と題し佐藤清吾郷土歴史研究家の講演、1796年(寛政8年・今から223年前)14名の人々が漂着、石巻を去るに当り乗組員一同を代表して陳世徳は「大深恩の天の如く大なる

を知らなん」と。皆の大恩に深く感謝して無事祖国に帰れる喜びを謝辞としました。いい人が多かったのですね。感動です。懇親会は斎藤敏子副会長の名司会で、門脇政喜副理事長の乾杯で和やかな懇親会、今年は仙台の日本語学校を卒業して石巻専修大学に入学された中国人一年生3名の方々を招待出来ました。また、第8回中国語講座に出席された4名の方々も出席され、皆で自己紹介しながら和気あいあいと懇談、菅原健二副会長の閉会の挨拶で中華人民共和国建国70周年記念の意義を大きくとどめる定期総会・懇親会となりました。

## 『蜀の国を訪ねて II』 蟹澤聰史

### 4. 樂山大仏と黄龍溪

#### 4-1. 樂山大仏

四川省樂山市にある樂山大仏は弥勒菩薩をかたどって彫られた巨大な磨崖仏で、近くの峨眉山とともにユネスコの世界遺産に登録されている。長江の支流、岷江、大渡河、青衣江が合流する地点にある。近代以前に造られたものでは世界最大・最長の石像である。河川の氾濫を防ぐために僧海通が民衆の布施をもとにして彫られ、90年もかかって唐代の貞元19年(803年)に完成したそうだ。そのためか、100畳分もあるお顔は何となく優しい感じだ。高さは71メートルで、東大寺の大仏の5倍もある。日本の磨崖仏をあちこち見て歩いたが、さすが大陸では何でも大きくて比較にならない。この大仏は昨年10月ころから大規模な修復工事が始まって、この3月に完成したばかり、ちょうどいいタイミングで見学できた。よくみると、胸の部分に穴がいくつも見られるが、これは1962年の修復の時に発見され、明代に開けられたもので経典などを入れたものらしい(Wikipediaより)。周囲の壁にも穴がいくつも開いている。ところで、この大仏と周辺の地質は赤色の砂岩・頁岩で、ヨーロッパの旧赤色砂岩(シルル紀末〜デボン紀)・新赤色砂岩(石炭紀末〜ペルム紀)などに似ている事に興味を持ったので帰ってから調べてみた。Tian Hongjun(1990)によれば、この付近の地層は中生代ジュラ紀末の急激な隆起により、白亜紀初期から末期にかけて熱帯条件の砂丘や扇状地のような場所で急激に堆積した。そのため石英・長石の粒子の周囲は赤鉄鉱でコーティングされて赤くなった。また、一部には石膏や塩もみられるということで、ヨーロッパの赤色砂岩よりもずっと新しい。成都市周辺にもかなり広く分布するらしく、バスの中からあちこちに見られた。この辺りの地質はインド亜大陸の衝突とチベット高原の隆起、四川盆地の形成とも関連して非常に興味のある所である。旅行に行ってもこんなことに目が留まるのは地質屋の性なのだろう。

#### 4-2. 黄龍溪古鎮

樂山大仏を観た後、明清時代の建築物の並んだ黄龍溪に立ち寄った。あまり時間もないので大急ぎで道路の真ん中を流れる小川に沿って船着き場まで歩いた。格子戸があったり長屋風の店が並んだ古い建物や店が並んでおり、黄龍溪一根面などの珍しい麵屋があった。新しい街並みもある一方で、こういった古いものも残っていて、ちょっとホッとする。

### 5. パンダとの出逢い

パンダ繁殖基地(成都大熊猫繁育研究基地)の名称から想像して動物園のような大がかりな場所だとは思わなかったが、生憎の雨模様にもかかわらず観光客で大賑わいだった。なるほど「客寄せパンダ」とはこういうものかと思いを新たにしていた。アップダウンの激しい広大な敷地には竹が一杯茂っている。我が子らが幼い頃に上野動物園でパンダを見て以来の対面、ジャイアントパンダというだけあってこんなに大きかったのだろうかとか今更ながらの感想を持った。八木山動物公園にパンダが来たらさぞかし賑わうだろうと思うのは、まんざら捕らぬ狸ならぬパンダの皮算用でもなさそうだ。寝ているかと思えば、歩き回ったりで結構動きもある。写真を撮るのが難しい。この繁殖基地には、子供の頃からパンダに憧れてわざわざ日本から四川農業大学に入学、上野動物園にも勤務した後、パンダの飼育員である阿部さんという若い女性がおられる。私たちは阿部さんに案内して頂き、いろいろお話を伺った。食物の99%は笹、基本的には単独で生活しており、繁殖期が短いこと、生まれたばかりは100~200g位だということなど、育てるのが大変難しいなどのことだった。こういった子供の頃の夢を実現した人もいるのだ。まさに、若者よ夢を！。

### 6. 都江堰

成都西方の都江堰市にある世界遺産である。紀元前3世紀、秦の時代に洪水に悩む人々のために造られた堰で、ちょうど北西に伸びる龍門山山地の出口にあたる扇状地の要の部分に造られた。この堰は北から南へと流れる岷江に中洲を造り、西側(金馬河)を岷江本流とし、東側(灌江)を農業用水として活用する。堰は川を分水する「魚嘴」、土砂を灌江から排出する「飛沙堰」、灌江の水を運河へ導水する「宝瓶口」という3つの堤防状構造物からなる。この水利施設によって2300年も経った現在でも四川盆地を潤しているから立派なものである。バスから降りて岷江を俯瞰すればその規模の大きさにまず驚かされる。石段を下り、河岸まで降りてゆらりゆらりと揺れる吊り橋「安瀾橋」を渡って中州・魚嘴まで行ってみた。まさに「水を治めるものは国を治める」ことが実感された。

この地域は四川盆地の西縁にあたり、龍門山断層がNE-SWの方向に走っている。この断層の動きにより、龍門山山地一帯は2008年5月12日に起こった四川地震で大きな被害を被り、都江堰の魚嘴の一部も破壊された。

今回の旅行ではここまで来て初めて山々を見た。近くには道教の聖地でもある青城山が、さらに遙か西南には峨眉山があるが、残念ながら見られなかった。この山々の西側にはインド亜大陸がユーラシア大陸にもぐり込んで生じたチベット高原が続く。

### 7. 四川省の人々

ここは北京や上海、長春からかなり離れた内陸部で、住んでいる人たちも大部分は漢民族でありあまり変わらないように見えるが、温暖な土地柄なのか人々は割とノンビリしているように感じた。郊外に出ると、車窓からも日本の原風景のような田園風景がみられる。

樂山市の街を歩くと、真昼間から麻雀をやっている人もいるし、店の人たちもとても親切だった。通りがかりのホテルのロビーですぐに腰掛けさせてくれたり、トイレを借りられたりする。街中の交差点を渡るのに一苦労ということもないし、クラクションも賑やかではない。道路の吸い殻や痰もなく、清潔であった。昨年も吉林省で感じたことだが、大都市ばかりか中小の都市でも没個性的な超高層ビルが林立、それも隣とほとんど隙間がない。

成都是四川料理の本場、やっぱり辛いけど美味しかった。唐辛子の辣(ラー)と四川山椒の麻(マー) が効いた辛みの麻婆豆腐などと、あっさりした味の地ビール、白酒、紹興酒なども賞味した。でも、日本人好みにある程度辛さを加減しているのかなと、それほど口の中が焼けるほどでもなかった。

## 8. あとがき

わずか5日ばかりの旅行で感想を述べるのもおこがましいが、過去に何度か訪れた広大で長い歴史を持つこの国からは、その度に強烈な印象を受ける。史跡や博物館はどこに行っても素晴らしい。中国はこの10年ほどの間にずいぶん変化した。新幹線も高速道路網もずいぶん発達した。しかし、探せば庶民の生活もあり、改めて中国の深く長い歴史の一端をわずかな時間に肌で感じた四日間だった。また、最近の中国の若い人たちの多いこと、活動的なことは、観光地や街中で実感される。

年をとると次第に体力もなくなり、海外旅行は無理かなと思いつつもいざ出てみると楽しくて、また次回も行ってみたいくなる。芭蕉も「道祖神のまねきにあひて取もの手につかず……三里に灸すうるより……」と言っているが、まさにその通りである。同行した妻は私の介添え役のつもりだったらしいが、結構楽しく満足そうだった。

なお、拙文はあくまでも私の印象ですので、誤解や不正確な点もあるかもしれませんし、個人の好みで余計なことまで書きなぐってしまいました。ご海容のほどを。このすばらしい旅行を計画され、ご案内頂いた関係各位に感謝いたします。

### 《参考文献》

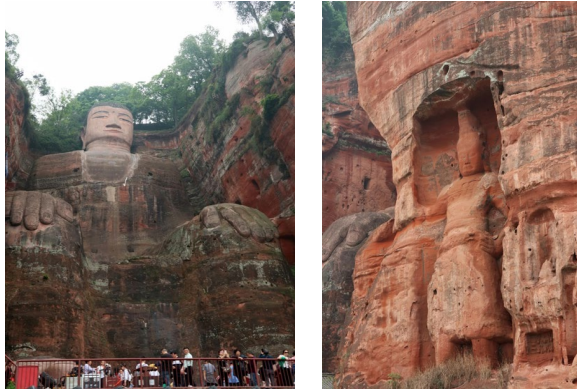
安藤和雄(2007) 西南シルクロードと焼畑的水田稲作からひもとくヒマラヤ東部一地域体系研究の端緒として一、ヒマラヤ学誌, No. 8, 57-76.

陳徳安(2000) 三星堆 古蜀王国的聖地, 四川人民出版社, 137pp.

Tian Hongjun(1990) The origin of Leshan great buddha -sandstone in Sichuan Province, Acta Sedimentologica Sinica, 8, 41-48.

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%BD%E5%B1%B1%E5%A4%A7%E4%BB%8F>

### ※4-1 樂山大仏の写真



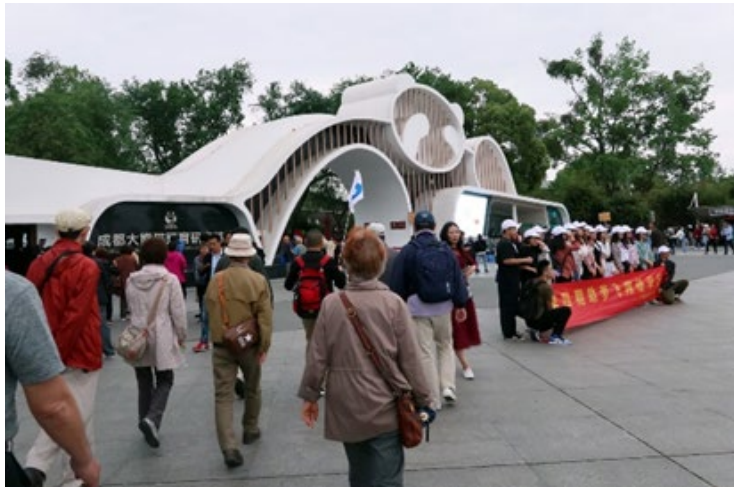
※樂山大仏と脇侍。脇侍は不動明王だろうか

### ※4-2 黄龍古鎮の写真



※黄龍溪古鎮の酒屋と一本面屋さん

## 5. パンダとの出会いの写真



※パンダ繁殖基地正門とパンダ

※《特記事項》 全日本中国語スピーチコンテスト東北大会のご案内

日時：2019年10月26日(土) 13:45から17:00 会場：日立システムズホール仙台

参加ご希望の方は資料を「宮城県日中友好協会」に請求していただければメール、Fax、郵送でお送りいたします。



※モデルになったパンダ



※阿部展子さんとの対面

## 6. 都江堰の写真



※ 都江堰の風景、上流側に川を分水する海嘴が見える。



※下流側には広大な四川盆地が広がる。



※ガイドの劉さんの説明はとても分かりやすい。



※ 本場の麻婆豆腐